■メディアは真実を報じない■

先月、EU 議会にてファイザー社の役員が「mRNA ワクチンに感染予防効果があるか調べる治験を行っていない」と証言し、今も世界中で大騒動となっています。ファイザーは当初、高い感染予防効果を謳い「他人のために」と言って多くの人に打つよう促しました。ワクチンパスポートはその高い感染予防が前提で欧州では義務化されていました。しかし、何の治験も行っていなかった。感染を予防出来るというデータは何も存在しない。逆に接種者の感染率の方が高くなっているのが現実。欧州では詐欺事件として操作も始まっていると言います。にも関わらず、日本ではこのような事実が一切報じられず、ワクチンパスポートも横行し、政府による接種者優遇の差別政策が続けられています。このように政府が勧奨することで接種事業は進んでいますが、同時に重篤な副作用で苦しむ方、亡くなる方も急増しているのが現実です。厚労省は接種後に遷延する後遺症について全国的な調査を開始すると発表しました。当然、政府も事態を把握しているということです。それでも接種を中止せず、今度は生後 6 ヶ月からの接種を特例承認し、努力義務を課すと決めました。正気の沙汰とは思えません。そんな政府の動きに疑問を呈する国会議員らによる「子どもへのワクチン接種とワクチン後遺症を考える超党派議員連盟」が発足し厚労省に努力義務取消の提言書を提出。先日は推進派と慎重派の専門家による討論会が企画されましたが、慎重派が十数人出席したのに対し推進派は一人。しかも途中参加の上、まともに討論もせず途中退席。その態度を見るだけで推進派が後ろめたいことをしているのは一目瞭然ですがメディアでは一切報じられません。そして、10 月 20 日には被害者遺族による「遺族会」が結成され記者会見が開かれました。政府に薬害と認めさせるために集団訴訟を起こす旨を発表しましたが、こちらも大手メディアは一切報じず。突然家族を奪われた遺族の悲痛な声をメディアは国民に届けようとしない。メディアに煽られ、政府を信じて打ったのに…。

超党派議連討論会の様子

遺族会記者会見の様子

「テレビは洗脳装置。嘘でも放送すればそれが真実」これは大手テレビ局の代表取締役が入社式で語った言葉です。これが事実。肝に銘じて下さい。テレビを鵜呑みにしない。新聞を信じない。情報で人を殺せる時代です。よく考えて生きていきましょう。